自立活動だより

平成29年11月22日（水）
福島県立聴覚支援学校会津校自立活動係
第2号

「言葉の育ち」について

9 月に東北福祉大学大西孝志先生をお招きし「公開学習会」を行いました。ご参加くださった皆様、ありがとうございました。総勢3 4 名の参加者の中、「乳幼児の言葉の発達について」御講演いただきました。その中で次のようなお話を伺いました。

1　手先の器用さ、経験など多くのことが「言葉の発達」と連動する。

2　経験・気持ちに言葉を結びつける。

＊ 出かけることが「経験」ではない。日々の「身の回りのこと」や「家事」などの経験に言葉を結びつけることが大切。

＊ 言い回しの学習の経験…もらったの？ もらってないの？

「1 ００ 円ももらいました。」「1 ００ 円しかもらえませんでした。」

「1 ００ 円もらえませんでした。」

3　読むことも経験と結びつく。

＊ 絵本の読み聞かせは大切→話し言葉より長い文章、副詞や修飾語の使い方

＊ 広告を読み取る力（書いていないことも考える）

→「相場を知っている」、「品切れを考慮し早く買いに行く」なども経験と言葉の結びつき

4　発音指導は書き言葉につながる。

＊ 坂「しゃか」と発音していると「しゃか」と書いてしまう。

＊ 伝えたいことが伝わることは情緒の安定につながり、言葉を学ぶ意欲にもつながる

【ご質問とそれに対する答えもいただきました。ご質問の一部をご紹介します。】

Q 文字の教え方、発音指導の教え方について

A 就学前のお子さんの読み書きは「教える・指導する」という捉えではなく、生活の中で触れさせることが大切です。子どもがわからなくても文字・指文字・手話などを自然に使うとよいです。絵日記等の活動の中でも行うと良いです。

A 発音指導は学校と家庭が連携していつでも行うことが望ましいですが、指導色が強くなると子どもは嫌がります。子どもが嫌がらないように、遊びや生活の中で行っていくのがよいでしょう（うがい；できるだけ長く，ローソク吹き，シャボン玉遊び，吹き戻し，鏡磨き（はーっと曇らせてきれいにするなど）。具体的な方法は幼稚部の先生にお聞きください。年少であれば、息の効果的な使い方（おなかから声を出す）、息の経済的な使い方など、発音の基礎基本を遊びや生活を通して一緒に練習してあげてください。

なお、１１ 月に小学部児童対象に作文や感想の表現方法について全体自立活動の学習を予定しています。

実施内容は第3 号でご紹介する予定です。